

遺失物

中村 龍介

十日ほど前の朝、電話のベルに叩き起こされた。ベッド横の時計を見ると九時。『遅寝・遅起き』の習性を御存知の友人、知人はこんなに早く掛けてこないはずだ。誰だろうと受話器を取った。

「池上警察です」と、太い男の声。

咄嗟に、オレオレ詐欺？ それともスピード違反が発覚？ と、身構えた。が、そうではなかった。

「グランデュオのカードを紛失されませんでしたか？」

グランデュオは蒲田駅ビルにあるショッピングセンター。カードは買い物する都度ポイントが溜まるので取得したが、クレジット機能はない。今年のクリスマスセールで買ったが、買ったとき、カードがないことに気がついていた。だが、特に重要なものでもなかったし、そのまま忘れていた。

「確かに手許にはありません。紛失したとすればずっと以前のことですが……」

「先週、マルエツから届けがありました。多分、マルエツに保管されていたのでしょう」

マルエツはスーパーのチェーン店。私が行くのは最寄駅の近くにある。何故そんなところで今頃見つかったのだろう。

「はあ、それで……？」

「拾得物ですから取りに来ていただきたいのですが……」

「特に必要なものではないので、捨てていただいで結構ですが……」

「そういうわけにはいきません。持ち主が特定された以上、取りに来て戴くか、放棄する場合でも、それなりの手続きが要ります。保管期限は六月十六日です。当署での保管番号は×××。それまでに来て下さい」

印鑑、身分証明書などカードの返却に必要なものを伝えて電話は切れた。

その保管期限が明日に迫っている。どうすべきか。放っておこうかとも考えたが、面倒なことになっても困るので午後

から取りに行くことにした。
 前の家では所轄警察は田園調布署だった。こちらは家から近かったが、今度の池上署はかなり遠い。ナビを頼りに車で出かけた。

着いてみると、田園調布署とは較べものにならない、立派なビルだ。中也キレイに整頓されている。ひよつとすると、以前流行った『こちら、本池上署』というテレビドラマは、此処がモデルかもしれない。

『遺失物』と書かれた案内板とところで、保管番号を告げた。応対に出た中年の警察官は、暫く分厚い遺失物台帳を調べていたが、該当物件を探し当てたようだ。

「あっ、中村さんですか。私が電話しました」
 嬉しそうに顔を上げた。恐らく、私が取りに来るとは想定していなかったのだろう。人の良さそうな顔つきに何となく安堵を感じる。

手続きはテキパキと進み、ものの五分で終わった。カードを手にお礼を述べる私を見て、警察官は立ち上がり一礼した。
 「御苦労さまでした」

その笑顔の中に、微かな達成感のようなものを見てとって、来てよかったと思っただ。

さて、半年振りに戻ってきたカードをどうするか。一応、財布には収めたが：

【二〇一五年六月記
 原稿用紙三・五枚
 課題「電話」】

